

1 まちづくりの目標

(1) 10年後にめざす町の姿

10年後の江差町の姿としてめざすことを示すと、次のとおりです。

一人ひとりを大切にし、みんなが地域で輝いている町。

まちの取り組みが町内外に発信され、一度地域外に出ていたが、江差町に戻って来る人や、住民の活動に対する参加者が増える好循環ができています。

人口減少社会の中でも、住んでいる人が、楽しく幸せを感じる町。

住んでいる人が楽しく元気に生活し、年をとっても、安心して生活でき、また、若い世代も、安心して子育てをしている。

ちいさな幸せをコツコツとみんなで生み出す町。

住んでいる人が、お互いのことを思い、協力しあい、町のみんなが力を合わせて、まちづくり活動を進めている。

歴史や文化を大切にし、住んでいる人が郷土に誇りを持っている町。

お祭り、江差追分、郷土芸能、文化財などを大切にし、郷土に誇りを持ち、地域に根差した人材育成、後継者の養成などに取り組んでいる。

身の丈に合わせた行政運営が行われている町。

「身の丈＝財政規模・税収見込み」に合わせた施設整備、行財政運営の持続可能なしくみづくりを実施している。

(2) まちづくりの基本目標

10年後にめざす町の姿を実現するために取り組む、まちづくりの基本目標については、次のとおりです。

～基本目標を考える視点(まちづくりの視点)～

- 過疎化、高齢化を受け入れたうえで、現実的な目標を持ち、持続可能なしくみ、好循環が生まれ輪が広がるしくみを考えます。
- できる事とできない事を総合的に判断した上で、できる事を着実に進めます。

まちづくりの基本目標

①経済基盤を持続させる地場産業の振興

若者の雇用の場づくり、地域が自立できる経済基盤の確立を意識した産業振興をめざし、一次産業を核とした裾野の広い地場産業の振興をめざします。

②住民が元気に安心して暮らせる生活環境づくり

過疎化や高齢化など、人口やその年齢構成に変化があっても、住んでいる人がいつまでも安全で安心して生活できる環境をつくります。

③人と人とのつながりを大切にした地域福祉や生涯学習、まちづくり活動の推進

行政と住民、住民相互がお互いに任せきりにせず、関心を持ち連携し合う関係を築きながら、福祉や教育、まちづくり活動などを進めます。

④身の丈に合った行政運営の推進

「折居姥の教え」を教訓とした、「身の丈＝財政規模・税収見込み」に合わせた行財政運営を行い、計画の進行管理に努めます。

（３）人口指標

平成17年(2005年)をピークに日本の人口は減少に転じ、北海道内のほとんどの市町村でも人口減少が続いているなか、当町においても、人口減少が続いています。

国勢調査及び住民基本台帳の数値をもとにコーホート変化率法※で今後の人口を推計すると、10年後の平成32年(2020年)にはいずれの推計も8,000人を下回ることが予測されています。

また、平成22年10月に実施した国勢調査の人口速報値が、9,004人と発表され、5年前に推計していた人口減少の予測を上回る結果となっています。

そのため、本計画では、生活環境の整備や子育て、福祉などの取り組みを積極的に進め、人口減少の抑制に努めることとし、平成32年(2020年)における総人口を7,400人程度とします。

これまでの人口の推移と目標年次の数値

区 分	国勢調査実績			国勢調査速報	目標年次
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成32年
総人口(人)	11,301	10,959	10,131	9,004	7,400

※(コーホート変化率法)過去における男女別・年齢5歳階級別人口の5年ごとの増減率(変化率・移行率とも言います)を算出し、今後もこの率が一定に継続すると仮定して、5年おきの男女別・年齢5歳階級別人口を推計する方法です。

〔参考〕人口推計の結果(平成37年まで)

	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	2024 (H36)	2025 (H37)
国調推計	基準年					推計年					推計年					推計年					推計年
3回平均変化率	10,131	9,974	9,817	9,659	9,502	9,345	9,179	9,013	8,846	8,680	8,514	8,339	8,163	7,988	7,812	7,637	7,463	7,289	7,115	6,941	6,767
2回平均変化率	10,131	9,994	9,857	9,720	9,583	9,446	9,295	9,144	8,994	8,843	8,692	8,528	8,365	8,201	8,038	7,874	7,709	7,545	7,380	7,216	7,051
最新変化率	10,131	9,955	9,779	9,603	9,427	9,251	9,068	8,886	8,703	8,521	8,338	8,151	7,963	7,776	7,588	7,401	7,221	7,041	6,860	6,680	6,500
住基推計					基準年					推計年					推計年					推計年	
2回平均変化率					9,422	9,255	9,088	8,921	8,754	8,587	8,415	8,242	8,070	7,897	7,725	7,554	7,383	7,212	7,041	6,870	
最新変化率					9,422	9,248	9,074	8,900	8,726	8,552	8,370	8,187	8,005	7,822	7,640	7,462	7,284	7,105	6,927	6,749	

(■は基準年をもとに5年おきに算出した推計年の数値、その他の数字は按分した数値)

（４）土地利用の基本方針

土地は生活の場、生産の場として最も基礎的な要素です。限られた土地でまちづくりを進めていくには、将来の発展方向や利用のあり方をふまえた上で、総合的・計画的に土地利用を進めていくことが必要です。

土地の持つ特性に配慮しながら、当町全体の土地利用を進める基本的な考え方として、次のような方針を掲げます。

長期的、計画的な土地利用に努めます。

先人から引き継いだ豊かな自然を次の世代に継承していくため、土地の公益性を尊重し、長期的な視点に立ち、計画的で秩序ある土地利用に努めます。

環境保全と安全性に配慮した土地利用を進めます。

環境に負荷をかけないように配慮するとともに、安全な生活環境の整備に努めます。また、想定される各種災害を未然に防ぎ、被害を最小限に防ぐことができる土地利用に努めます。

利便性や活性化を高める土地利用を進めます。

土地が持つ特性、既存の施設や交通基盤、生活基盤など、町内にあるさまざまな資源や要素を相乗的に結びつけ、利便性の向上や地域の活性化につながる土地利用に努めます。

2 施策のあらまし

まちづくりの基本目標に沿って、各分野で進める施策のあらましについて示すと、次のとおりです。

（１）経済基盤を持続させる地場産業の振興

関連する分野 農業 林業 漁業 商業 工業、企業誘致、雇用創出 観光

- 後継者、新規就業者などの担い手を育成するとともに、若者の雇用の場の拡大を図ります。また、各産業で頑張っている担い手を応援する気持ちを町全体で高めます。
- 農林水産業それぞれに関わる環境保全や生産基盤の維持強化とともに、商工業や観光業も含めた異業種間の連携を深め、付加価値の向上を図ります。
- 住民や観光客に親しまれる商店づくり、滞在時間や経済効果をより伸ばす観光振興など、ソフト・ハード両面における取り組みを進め、地域経済の活性化を図ります。
- ものだけでなく、生活、活動、文化、歴史など目に見えない要素からも魅力や誇りを見出し、江差らしさや江差ブランドとして産業振興に活かします。

（２）住民が元気に安心して暮らせる生活環境づくり

関連する分野 土地利用 道路、河川 港湾 公共交通機関、情報通信 景観
住宅、宅地 水道、下水道 ごみ・し尿処理、環境衛生
自然環境、環境保全 公園 消防、救急、防災
交通安全、防犯、消費生活

- 人口や年齢構成をふまえながら、住民生活の安全や安心、利便性を支える生活基盤を維持します。
- 一人暮らしや介護生活、子育てなどにより、住民が地域から孤立しない体制や環境をつくり、人口の減少や高齢化が進んでも、住みやすく、活気があるまちづくりを進めます。
- 環境への負荷軽減や環境保全に対する意識を高め、住民みんなで取り組んでいくことにより、豊かな自然や潤いのある生活空間を守ります。
- 住民一人ひとりが交通事故や犯罪、災害などから自らを守る意識を高め、地域ぐるみで防ぐ取り組みを広めます。

（３）人と人とのつながりを大切にした地域福祉や生涯学習、まちづくり活動の推進

関連する分野 子育て支援（家庭教育、青少年健全育成） 保健 医療 地域福祉
高齢者福祉 障がい者福祉 低所得者福祉、人権
国民健康保険、高齢者医療、介護保険
生涯学習（社会教育、スポーツ、文化振興、文化財保護） 学校教育
交流、移住・定住、国際化対応 コミュニティ、まちづくり

- 保健・医療・福祉の連携を深め、住民の健康を支えます。
- 子育てや高齢者福祉、障がい者福祉を進める上で、一人ひとりの思いやりが、見守りや支え合いの活動に結びつくようなしくみをつくります。
- 江差追分など江差町に根ざした文化や歴史を振興し継承するとともに、幅広く生涯学習、生涯スポーツに親しめる機会をつくり、その成果をひとづくりやまちづくりに活かします。
- 地域の人材や資源を活かしながら、少子化だからこそできる、子ども一人ひとりを大切にしたい子育て、教育を進めます。
- 行政と住民、住民相互など、お互いに任せきりにしない意識を高め、課題解決型の取り組み、成功体験や達成感の共有により、ともに手応えを感じるまちづくり活動を広げます。
- 町外者や町外から転入してきた人たちの意見に耳を傾け取り込む風土を醸成し、一人ひとりの能力が発揮できるまちづくりを進めます。

（４）身の丈に合った行政運営の推進

関連する分野 広報・広聴 行財政、広域行政 計画の推進

- 行政運営に関する情報を開示するとともに、まちづくりに関する情報や課題を共有し、課題解決に向けた意見交換が行える場として、広報や広聴を充実させます。
- 「折居姥の教え」を教訓とした、「身の丈＝財政規模・税収見込み」に合わせた施設整備、財政運営を進めます。
- 課題や住民の意向を現場で把握し、効果や効率をふまえて事業を推進します。また、検証により必要に応じて事業を見直す姿勢を定着させます。